

## 2014年度多摩ジェンダー教育ネットワーク 第18回～20回会合 加藤恵津子

### 「多摩ジェンダー教育ネットワーク」について

2009年11月に発足、第1回の会合を開いた「多摩ジェンダー教育ネットワーク」（以下「ネットワーク」）は、専任・非常勤を問わず、多摩地区の大学でジェンダー教育に携わる人々の「人間関係」です。

ジェンダー関連科目はあっても、ジェンダー教育がプログラムや専攻として制度化しにくい日本の諸大学にあって、その教育に携わる人々は孤立しがちです。当ネットワークはそのような人々をつなぎ、経験、スキル、そして直面している問題点を分かち合うことで互いをエンパワーすべく始めました。

これには「顔の見える」「地つづき」の関係づくりが重要と考え、まずは行き来のしやすい多摩地区の大学教員をメンバーと定めています。主な参加者は、職場の所在地または居住地が多摩地区である方々ですが、中には「越境」参加者もおられます。また大学院生、NPO等の活動家、自治体職員（2013年度より多摩市男女共同参画担当の方々も参加）、出版社勤務の方など、ジェンダー・セクシュアリティ教育・研究に関心のある様々な方にもご参加いただいています。

会合は3～4か月に一回、平日の夜19～21時、多摩地区の諸大学およびTAMA女性センター（京王線 聖蹟桜ヶ丘駅前）で、持ち回りで開催しています。メンバーによる教育・研究実践の報告の他、特定のテーマに基づき、外部講師をお招きしてのレクチャー形式の会合も開催しています。

参加をご希望の方、また参加を勧めたいお知り合いのいらっしゃる方は、どうぞお気軽に、以下の代表アドレスまでご連絡下さい。

**メールアドレス：**[tama.gender.education@gmail.com](mailto:tama.gender.education@gmail.com)

**世話人（2014年度現在）：**

石川照子（大妻女子大学比較文化学部）

加藤恵津子（国際基督教大学ジェンダー研究センター）

木本喜美子（一橋大学ジェンダー社会科学研究センター）

**事務担当：**松崎実穂（国際基督教大学ジェンダー研究センター 研究所助手/  
準研究員）

## 報告

### 〈第18回会合〉

日時：2014年5月26日（月）、19:00～21:00

テーマ：「少年雑誌に見る「男性性」の変容―日清・日露戦争からアジア・太平洋戦争を時間軸に」

発表者：内田雅克（東北芸術工科大学）

場 所：国際基督教大学

出席者：11名

近代日本の複数の少年誌において、理想とされる少年像が、雑誌によって異なったり、時期によってゆらいだりしながらも、第二次世界大戦期に向かって次第にミソジニー（女性嫌悪）と「ウィークネス・フォビア」の傾向を強めていく様が、豊富な史料をもとに明快に論じられた。前回の少女雑誌についての報告との比較も含めて、「少女らしさ」「少年らしさ」の近代における生成について、多層的な議論が交わされた。

### 〈第19回会合〉

日時：2014年7月28日（月）、19:00～21:00

テーマ：「売買春史でひらく社会秩序の動態論―1910年代アメリカの事例から」

発表者：松原宏之（横浜国立大学）

場 所：TAMA女性センター

出席者：11名

20世紀初頭のアメリカで、キリスト教系の（特に女性の）ソーシャルワーカーが先鞭を付けた売買春、貧困、性病等の問題に、医師らの「科学的な」手法や言説が次第に介入してくる様、とくに第一次世界大戦を契機に、「兵士の性（のコントロール）」との関連で国家プランとなっていく様を豊富な史料に基づいて論じていただいた。21世紀の日本にいる者にも示唆に富む内容で、

質疑応答に続いて活発な議論が行われた。

### 〈第20回会合〉

\*一橋大学 CGraSS (ジェンダー社会科学研究センター)、第28回公開レクチャーシリーズに合流

日 時：2014年11月21日(金)、16:30～19:00

テーマ：「日本占領と性一性暴力、売買春から親密な関係まで」

発表者：平井和子(一橋大学)、茶園敏美(京都大学)

場 所：一橋大学(司会：佐藤文香)

終戦直後の日本における、進駐軍兵士のための慰安所(平井氏)と、米兵に対する売買春を職業とした女性「パンパン」(茶園氏)の実態という、重なりも多いテーマを、偶然にも同時に研究していたお二人が出会い、貴重な史料をもとに詳細に事態を論じられたことで、「米兵」とも「敗戦の犠牲者である女性たち」とも一枚岩的に言えない、数々の複眼的な視点が得られた。来場者も、中部屋に50名を超え、椅子や配布資料が足りなくなるほどだった。

**From 18th to 20th Meetings of the Tama Gender Education Network**  
**2014**  
**(Summary)**  
**Etsuko KATO**

The Tama Gender Education Network (hereafter, "Network") is an association of full-time and part-time lecturers who teach gender-related courses at universities in the Tama district. These lecturers tend to be isolated from one another in the Japanese academic environment, which marginalizes gender and sexuality studies. The Network launched in November 2010 in order to support the mutual empowerment of its members through sharing experiences, teaching skills, and any hardships faced. The Network, which started within Tama to enhance face-to-face communication, now welcomes members from outside of the district. It also encourages the creation of a network beyond academia, such as with activists, publishers, local governments, etc.

For inquiries, please feel free to contact the Network.

**E-mail:** [tama.gender.education@gmail.com](mailto:tama.gender.education@gmail.com)

**Organizers (as of 2014):**

Teruko Ishikawa (Faculty of Comparative Culture, Otsuma Women's University)

Etsuko Kato (Center for Genders Studies, ICU)

Kimiko Kimoto (Center for Gender Research and Social Sciences, Hitotsubashi University)

**Clerical Staff:**

Miho Matsuzaki (Research Institute Assistant, Center for Gender Studies, ICU)